

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	原発性全身性 AL アミロイドーシスおよび多発性骨髄腫に伴う二次性 AL アミロイドーシスにおける t(11:14)遺伝子転座の臨床的意義について
研究責任者	野村 萌
研究機関名	日本赤十字社医療センター 血液内科
研究目的と意義	<p>AL アミロイドーシスは、腫瘍性に増殖した異常形質細胞の産物である免疫グロブリン (M 蛋白) の軽鎖に由来するアミロイド蛋白 FLC (free light chain) が、全身の臓器に沈着して臓器障害を来す疾患です。また、AL アミロイドーシスは、多発性骨髄腫 (Multiple Myeloma、以下 MM) に合併するものと MM の診断基準を満たさない原発性とに分類されます。</p> <p>AL アミロイドーシス患者さんにしばしば見られる遺伝子異常として 11 番染色体と 14 番染色体の相互転座 (t(11; 14)転座)が知られており、これは多発性骨髄腫としては予後不良因子ではないものの、AL アミロイドーシスとしては予後不良因子として知られています。しかし日本人集団における t(11; 14)転座の報告は少なく、本研究は日本人 AL 患者さんにおける t(11; 14)転座の臨床的意義を明らかにすることを目的としています。</p> <p>当センターにおける AL アミロイドーシス患者さんの診療データを検証することで、t(11; 14)転座の有無による AL アミロイドーシスの治療経過の違いなどを明らかにし、今後の診療に役立てていきたいと考えています。</p>
研究方法	<p>対象は 2008 年 5 月から 2017 年 12 月の間に原発性 AL アミロイドーシス及び多発性骨髄腫に伴う二次性 AL アミロイドーシスと診断され、当センターの電子カルテで初期治療から経過を追うことのできた方です。診療上の必要性をもって行われたこれまでの検査結果や診療録の内容を元に、患者さんの臨床所見、治療経過を後方視的に解析します。なお、研究結果は学会や論文で発表される可能性があります。</p> <p>倫理的配慮：解析は、個人情報の保護に十分配慮した上で行います。個人名が特定されないよう、患者さんの情報は匿名化されます。上記対象に該当する方で、本研究への登録を希望されない場合は、下記までご連絡ください。登録を希望されなくても不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 担当者：野村 萌 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>